

## 第1学年9組 道徳指導案

### 1 主題名 無償の愛から感じる事〔内容項目C-（14） 家族愛〕（1時間完了）

〈資料名 「たったひとつのたからもの」

出典：たったひとつのたからもの 息子・秋雪との六年

（文藝春秋 一部改作・抜粋）

### 2 ねらい

病を抱えながらも懸命に生きようとした秋雪くんの姿と、それを懸命に支えた両親の姿を通して、親の無償の愛の存在に気づき、その愛の深さに感謝をしながら、これからの生活で希望をもち、家族の一員として家族を支えようとするなど、より充実した家族関係を築いていこうとする道徳的態度を育てる。

### 3 ねらいとする道徳的価値

生徒はささいなことで心の揺れが生じることが少なくない。中には、親の愛情を感じたり、気づいたりしながらも、素直に受け止めることができずに反発してしまうこともある。そのような生徒たちが、この物語の主人公秋雪くんの前向きに懸命に生きる姿を懸命に支える両親の姿を通して、自分の親の愛の深さに気づき、感謝の気持ちを抱かせるようにしたい。そして、これからの生活で希望をもち、家族の一員として家族を支えようとするなど、より充実した家族関係を築いていこうとする態度を育てたい。

### 4 ねらいとする道徳的価値に関する生徒の実態と願い

#### （1）学級について

本学級の生徒は、男女の仲が良く、放課になると一緒におしゃべりをしたり、自然教室などの行事、普段の給食準備などでは男女協力して取り組んだりすることができる。また、生徒同士でよりよい学級をつくろうと、給食の配膳の時に声をかけたり、チャイム着席のときに呼びかけをしたりすることができる生徒が多い。応援コンクールの練習のときにも、ダンスが苦手な生徒に声かけをして、一緒にやろうという雰囲気づくりをする生徒がいた。一方で、自分の最も身近な親に対して、よい関係をつくることのできない姿が見られる。個別懇談の際に、親のいうことを聞かず、暴言をはくから困るといふ相談を受けたり、自分の身体の配慮のことで親と共に来校しているのに、考えをすべて親に語らせたりと、親に反発したり依存したりする姿が見られた。そこで、病を抱えた秋雪くんを必死で支える親の姿に触れることで、親の無償の愛に気づき、家族の一員として家族を支えようとするなど、より充実した家族関係を築いていこうとする姿を期待したい。

#### （2）抽出生徒について

##### ①抽出生徒Aについて

部活動で悩み事があると母に相談してアドバイスをもらったりするなど、親とのコミュニケーションを積極的に取ることができている。また、母と相談していきいたい高校を決め、その目標のために、日々努力することもできている。

本資料を読み、母の苦しみや辛さにも、母のがんばりにも共感することができるだろう。Aを意図的に指名し、秋雪に対する自責の念はあったけれども、それと同時に悲しみを乗り越え、秋雪という存在に感謝する母の思いを語らせたい。そして、「なぜ悲しみを乗り越えることができたのだろう」と補助発問をし、学級全体で母の生き方のすばらしさや秋雪に対する無償の愛を感じさせたい。

##### ②抽出生徒Bについて

生まれつき足が悪く、日常生活の中でできないことや他人よりも時間がかかってしまうことが

ある。しかし、できないことを足のせいにして、できることをやらないこともある。例えば、給食で好き嫌いをしたり、話をずっとして食べてるのが遅くなったりする。また、自然教室の際、自分の身体の配慮のことで親と共に来校しているのに、考えをすべて親に語らせ、他人任せである様子が見られ、困ったときには母に頼ればいいという甘えが感じられた。この授業で、秋雪くんを精一杯支える母の姿から、母の愛を感じると同時に、母に頼ってばかりいるのではなく、自分が家族の一員として家族を支えようとするなど、より充実した家族関係を築いていこうとする姿を育てたい。

## 5 資料について

### (1) 資料の概要

早産で生まれた秋雪くん。生まれてすぐ、心臓障害により余命は1年と宣告される。さらにダウン症の診断も受ける。両親の支えもあり、無事に1歳の誕生日を迎えることができた。家族そろって遊びに行ったり、幼稚園に入園したりと楽しい生活を過ごす。しかし、あと3か月で小学校に入学というところで秋雪は亡くなってしまふ。年長の夏、海に行ったときには、海に向かってほほえむ秋雪を父が抱きしめている姿を写真に納めた。それが母親にとっての「たったひとつのたからもの」となる。

### (2) 「耳をすまして、学びを拓く」ための資料の生かし方

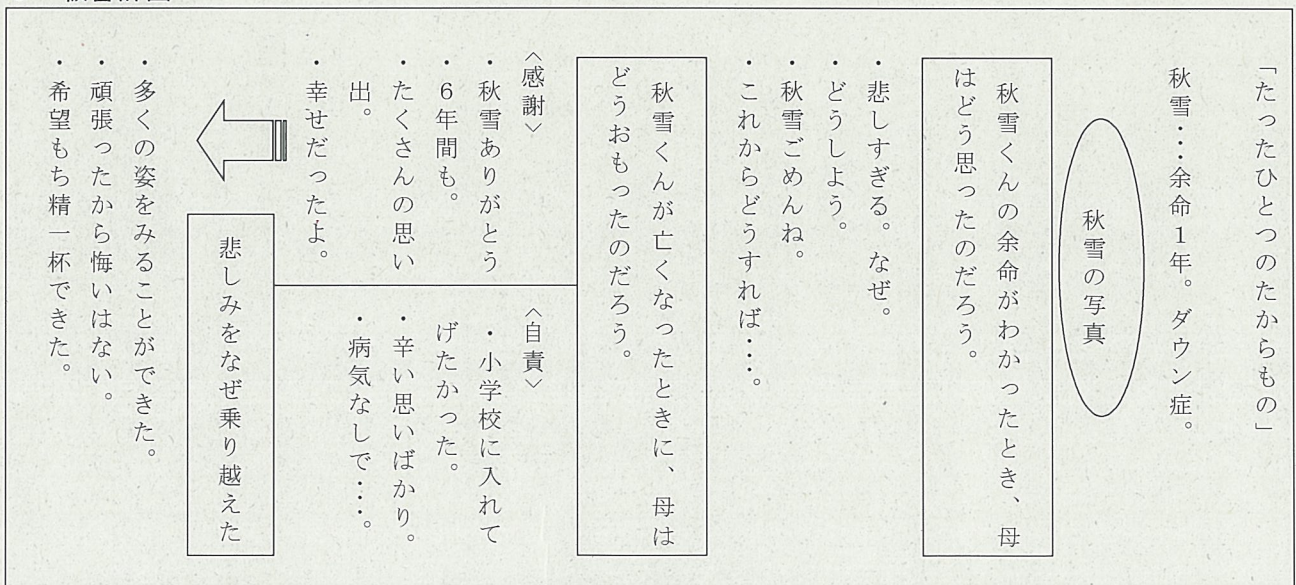
#### ① 資料との対話をさせるための手立て

秋雪くんが生まれた経緯を読み聞かせ、余命を告げられたときの母の心情について考えさせる。その後、さまざまな場面を経て、秋雪くんが亡くなる場面に注目させる。その場面での母の思いに迫ることで、辛さや悲しみ、感謝の思いももつ母の心の動きに迫ることができるようにする。

#### ② 他者との対話、自己内対話をさせるための手だて

まず、秋雪の余命がわかったときの場面の母の気持ちを考えさせる。次に、秋雪が亡くなってしまったときの母の気持ちを考えることで、母の気持ちの中に、余命がわかったときとは違う感情も芽生えているというところに注目する。「どうして悲しみを乗り越えることができたのだろう」と補助発問を投げかけることで、母親の姿から、母親が子どもを思う気持ちの強さや深さに気づかせたい。

## 6 板書計画



7 本時の展開

時間	学 習 活 動	※教師支援 ☆評価
7	<p>○資料の範読を聞く。</p> <p>秋雪くんの余命がわかったとき母はどう思ったのだろう。</p> <p>全 体</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>余命が1年なんて…。これから、どうしよう。悩む。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>秋雪くんをおんぶできないと言われてとても悲しい。秋雪ごめんね。(①)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>余命一年と聞いて、絶望した。これからどうやって生きていけばいいのだろう。</p> </div> </div>	<p>※資料を範読し、秋雪くんの生まれたときの写真を提示することで、余命の告知を受けた母の心情に迫ることができるようにする。</p> <p>※余命の告知を受け、ショックを受ける母の心情を発表した生徒の意見をうなずきながら受け止めることで、悲しみや悩み、辛さや秋雪くんへの謝罪が同居する母の複雑な心情を理解できるようにする。(①B:認める)</p>
20	<p>秋雪くんが亡くなったときに、母はどう思ったのだろう。</p> <p>○相互指名で話し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>〈感謝〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>6年間辛く苦しかったけど、ここまで頑張ってくれて、秋雪ありがとう。(②)</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>秋雪との思い出を胸にこれからも生きていける。</p> </div> </div> <div style="width: 45%;"> <p>〈自責〉</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>歩くことも、話すことも満足にできなかったね。ランドセルを背負わせてあげたかった。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>秋雪に辛い思いをさせてしまった。苦しい治療をさせてごめんね。許して、秋雪。(②)</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>親として、五体満足に産んであげられなくて、ごめんね。天国でまた会おうね。</p> </div> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>母はどうして、悲しみを乗り越えられたのだろう。(③)</p> </div>	<p>※母の気持ちを「ごめんね、苦しい思いをさせて」〈自責〉という意見、「ありがとう、頑張ったね、幸せだった」〈感謝〉という意見とに分けて板書することで相反する気持ちが同居したであろう母の心情に迫ることができるようにする。</p> <p>※〈感謝〉の意見に偏った場合は、2歳のときに生死をさまよった場面の写真を提示したり、そのときの母の心情を、再度読み聞かせたりすることで、幸せな日々ばかりではなく、さまざまな葛藤を乗り越えてきたことを感じ取らせるようにして、考えをゆさぶる。(②E:ゆさぶる)</p> <p>※〈自責〉の意見に偏った場合は、いずみの学園での秋雪くんの頑張りや父との海での思い出の写真を拡大して提示し、「写真を撮っているお母さんはどんな気持ちだろう。」と補助発問をすることで懸命に生きた秋雪くとそれを支えた両親の姿を感じられるようにして考えをゆさぶる。(②E:ゆさぶる)</p>

〈秋雪の存在〉  
余命よりも6年も多く生き、幼稚園に入園する姿などさまざまな姿を見ることができたから。

〈母親として〉  
さまざまな困難な状況に陥ったけれども、希望をもち、その時々を精一杯過ごしたから。(④)

〈母親として〉  
あんなに頑張って懸命に育てたのだから、悔いはない。(④)

〈秋雪の人生から〉  
自分の子が精一杯生きている姿がたったひとつのたからものになったから。

3 5 ○CM映像を視聴する。

明治安田生命CM  
秋雪とのかけがえのない6年間の思い出の映像

4 2 ○振り返りをする。

母が辛いことを乗り越えて愛情をたくさん注いだのも、ただ精一杯に生きる秋雪の姿を見て、幸せにたくさん気づかされたからだね。では、これまでのあなたたちは母からどんな愛情をもらったと思うか。また、それをこれからどのように返していくのか。

私のできないことや不安なことにいつも相談に乗ってくれた。これからは、母に任せるのではなく、自分でも少しずつできるようにしたい。

秋雪くんの生きる姿から多くのことに気づかされた母の心情に迫ることで、母の無償の愛情に気づき、これからは家族の一員として家族を支えようとするなど、よりよい家族関係を築いていこうとする姿

※〈自責〉の意見が出た後、「どうしてその悲しみを乗り越えられたのだろう」と補助発問を投げかけることで、困難な状況に負けずに常に秋雪のことを考えて生きた母親の生き方や無償の愛に気づくことができるようにする。(③E:気づかせる)

※④の意見をもつ生徒を意図的に指名し、母の子どもに対する愛の深さについて共感するとともに、抽出生徒Bに問いかけ、その答えを認め、評価する。(④B:認める)

※黙想する時間をとり、これまでに経験した困難な状況で、自分はどうしたか、これからどうするか考えることができるようにする。

☆自己の生き方を見つめ、よりよく生きようとする心情を高めることができたか。(プリント、発言)

### 授業の視点

- ① 母の苦しみや辛さ、秋雪への感謝の思いなどの心の動きに迫るために、場面絵を提示したり、CMを見せたりするなどの手だては有効であったか。
- ② 中心発問に対する「どうして、悲しみを乗り越えられたのだろう。」等の補助発問(③E:気づかせる)はねらいに迫るうえで有効であったか。